

日本標準職業分類の目的等の整理（論点ペーパー）

これまでの研究会の議論において、職業分類の課題に対する見直しを検討していくには、事前に職業分類の目的等を整理しておく必要があるとの見解が示された。

については、職業分類の目的等について、次の事項に沿って検討し、本研究会の共通認識として整理することとしたい。

1 職業分類に期待される役割

職業分類は統計基準として、さまざまな統計で使用されているが、職業分類を使用している統計で職業別に表章を行うことについて、どのような目的、利用方法、分析等が行われているのか整理することとしてはどうか。

- ① 職業分類の位置付け（公的統計基本計画などから求められる役割）
- ② 職業別に表章を行う統計からの期待（職業別表章の目的、利用方法、分析等）

2 職業分類における分類の視点

職業分類を使用している統計の目的、利用方法、分析等の整理を踏まえて、職業を区分する際に、どのような視点に着目して分類を設定することが、当該統計の質の向上につながるのか検討し、本研究会における共通認識として整理してはどうか。

- ① 職業を区分する視点
- ② 職業分類とは異なる軸で捉えることが可能な視点について

3 職業分類における用語の整理、職業の決定の考え方

副業、兼業、ギグワーカーなど多様な働き方が進んでいるが、職業分類で定義している用語や職業の決定の考え方について、社会の変化に伴う何らかの見直しや配慮すべき事項を検討し、本研究会における共通認識として整理してはどうか。

- ① 職業分類における用語の整理
- ② 職業分類における適用単位、職業の決定の考え方

4 統計の調査技術・格付け実務における制約と、利用者ニーズとの折り合い（仮）

職業別の表章は、統計調査の回答を職業分類に沿って格付けすることで実現される。しかしながら、例えば、統計調査の対象が世帯であった場合には、職業分類で設定した職業に区分するための詳細な情報を得られないなど制約が生じることとなる。

このような統計の調査技術・格付け実務における制約と、利用者ニーズとの折り合いについて、本研究会でどのように考えるのか、基本的なスタンスを整理してはどうか。

- ① 職業分類の見直しに当たって考慮すべき実務における制約
- ② 統計調査実施者及び利用者に向けた留意事項